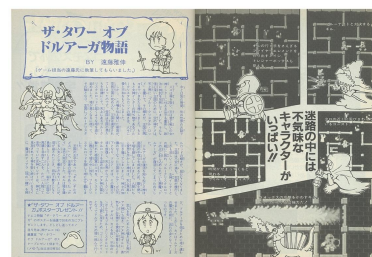
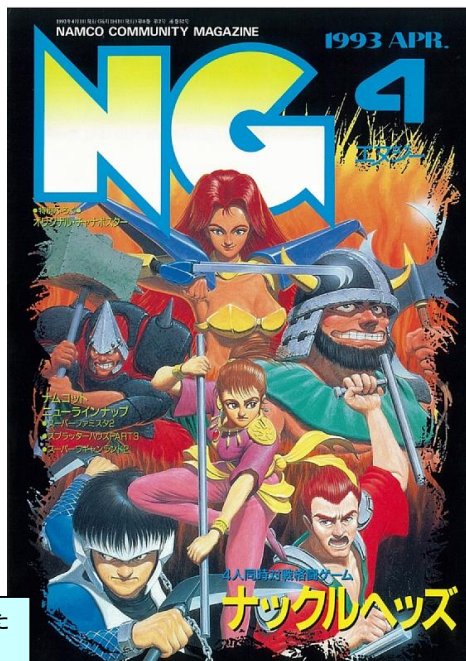


ナムコ伝 08 NG(エヌジー)  
コミュニティ・マガジン  
1983～1993

知る人ぞ知るナムコ・コミュニケーション誌。全国のナムコのロケーション(アミューズメントスポット)にて配布された。創刊された当時、ゲーム情報誌がなく、ゲームファンの貴重な情報源となった。社員による手作り感覚の誌面、ナンセンスな読者参加ページ、富士弘氏の漫画『午後の国』『迷廊館のチャナ』など、今でもファンが多い。季刊NG(1983～)はA5判で全14号、月刊NG(1986～)はB5判で全52号(29号以降は隔月)発行された。志を受け継いだ広報誌『ノワース』が現在も発刊中。



季刊 NG 創刊号( )と、最後に飾った NG52号( )の表紙



ゲームの設定資料なども掲載した。



読者参加ページ「元気新聞」

当時小学生の私は、田舎のためナムコゲームの情報が手に入らず、NGの郵送を申し込んで購読しておりました。ある時、なかなかNGが郵送されてこないことがあり、記載の連絡先を頼りに電話してしまいました。程なくNGは無事手元に届いたのですが、その数日後、もう一冊同じNGが送られてきました。その中には、手書きで「折角楽しみにしてもらってすみません…。もしかしたら申し込みがこちらに届いていないかもしれないので、NGを送付します」といった内容が書いてあったと思います。本当はちゃんと届いていたのに。ますますナムコが好きになった夏の日でした。(ドラゴンスピリットさん)

NGの郵送係はS子からやっちゃん、森のお母さんへと引き継がれましたが、みんな読者の保護者みたいな感覚で対応していたわね。切手が同封されていない子にも「今度入れてちょうだいね」とひと言添えて送ってあげたり、住所が間違っていたり誤字のひどいおたよりは添削して返送してあげた事も。今思えばすごいおせっかい。でもそれがきっかけで仲良くなった読者も多かった。そんなアットホームなところもナムコらしさだったかも。(S子)

私とナムコとはファミコンのマッピーからの出会いでした。当時はナムコから新しいソフトが出るたびに買っていました。当時ゲームセンターで配られていたNGも集めました。忘れられないのは読者プレゼントでNGのバックナンバーを10冊くらいプレゼントに当たった事でした。今までに懸賞に当たったのはそれだけです…。ずっと忘れられない思い出です。(大分県 喜航さん)

プレゼントは社内をあちこち回って調達。読者あこがれの開発担当者に使用中のボールペンとかサインを提供してもらった事もあったわね。あれは月刊NGの1周年の時、プレゼントが集まらなくて困ってね、編集室にあるのはNGの在庫ぐらいい。「これ、プレゼントにするか!」とおやじのひと声。苦肉の策のバックナンバー1年分100名様プレゼントだったんです。喜んで頂けて良かった!(S子)

自分を成長させてくれたもの、それは「NG」です。自己疑問から強烈な問いかけを發した、What's namco。書道塾に元気新聞。数ある企画の中でも一番思い出深いのが「チャレンジマン」。自分の立てた目標に向かって1年間努力しようという、単純ながら難しいもの。私はチャレンジマン159号として牛乳を毎日2本のみ、身長を165cmにするという目標を立て参加しました。毎日欠かさず繰り返し、日記を残

す習慣をつけたことが、自分にとっての財産になったと強く感じます。最後に、編集部は何回も電話して、仕事でご迷惑だったでしょうが、やさしく対応いただいたS子さん。おかげさまでチャレンジマン159号は立派な(?)大人になれました。最高の夢と思い出をありがとう。(岐阜県 チャレンジマン159号さん)

あの牛乳飲みのチャレンジマン159号さん?うわーっ、なつかしい! 将来あなたがどんな大人になるのか不安と期待で夜も眠れなかったのよ(笑)。立派な大人になれたのね。S子は嬉しいわ。S子も普通のおばさんになれたわ。ところで115歳まで生き抜くという目標のチャレンジマン77号は元気かしら? NG読者、スタッフの同窓会が出来たらいいね。17年後のS子は、相変わらずのオタンコよ。(S子)

私が中学生だった頃、最新情報を目当てに読み始めたNG。何号か読んでいたうちに読者コーナーが密かに熱く盛り上がっている事に気づき、最新情報は二の次になってしまっていた。今思えば、お気に入りになった理由がわかる気がする。NGは、一方通行の存在ではなく、読者、アーケードのユーザーと一緒に作り上げていた、まさに双方向のコミュニティ誌だったので。巻頭カラーで読者参加企画が紹介されたりしてましたね。投稿したネタが「おたんなこナスのコーナー」で紹介された事もあった。S子さんは元気だろうか。こういう昔話、「昔は良かった」で済ませて良い事なのだろうかと思えます。ユーザーと共に成長してきたアーケードゲームに、もう一度スポットが当たる事を期待しています。(宮城県 かんちゃそさん)

そう、かなり熱く討論されていたわよね。ナムコ命という熱狂的なファンが多かった時代だからね。真剣にゲームをやってまじめに語りあってたものね。読者からのおたよりに考えさせられる事、教えられる事、励まされる事たくさんあったわ。そして何より嬉しかったのは、ゲームやNGを通して自分自身を見つめる読者が増えていった事だった。今でも「ナムコ魂」「NG魂」健在ですか?(S子)



S子(えすこ)

1983年入社。NGの郵送係を経て、月刊NG創刊号から編集スタッフへ。ロケーション紹介と読者ページを担当。1992年、出産のため退社。現在、長野県松本市在住、パートに励む日々。